



ありがとうございます。おかげさまでFUSOは創立60年



# FUSO REPORT 第61期 中間報告書

2017年4月1日から2017年9月30日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



# トップインタビュー(Q&A)



ありがとうございます。  
おかげさまでFUSOは創立60年

当社が6月24日に創立60周年という  
記念すべき節目を迎えることができましたのも、  
ひとえに皆さまのご支援の賜物であり、  
心より厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長  
赤澤 良太

代表取締役会長  
藤岡 実佐子

## Q.1 当上半期の業績について お聞かせください。

お陰様で、売上高、営業利益ともに、半期での過去最高を達成しました。

半導体市場が引き続き好調に推移しており、当初計画以上にスラリー向けの超高純度コロイダルシリカの販売が伸びました。また、輸入原材料高や石油価格の上昇もありましたが、前年実績より円安に推移したために、売上高は前年より増加しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は195億7千9百万円(前年同期比13.6%増、23億4千7百万円増)

となりました。営業利益は54億2千4百万円(同19.1%増、8億7千万円増)、経常利益は54億4千5百万円(同22.1%増、9億8千6百万円増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、37億6千7百万円(同23.3%増、7億1千百万円増)となりました。

## Q.2 超高純度コロイダルシリカの 今後の需要の伸びはどうでしょうか?

超高純度コロイダルシリカは、シリコンウエハや半導体製造時のCMP (chemical mechanical planarization) スラリー原料として使用されています。半導体市場は今後も



スマートフォン、PC、クラウド、AI(人工知能:Artificial Intelligence)、IoT(モノのインターネット:Internet of Things)等を中心に着実に拡大していきます。さらに半導体加工の微細化に伴い(傷のつきにくい)超高純度コロイダルシリカが使用される場面が増加すると見込んでいます。当社は超高純度コロイダルシリカのトップメーカーであり今後も需要は順調に伸びていくと考えています。そのため新規設備の建設を進めています。

### Q.3 今後、果実酸(リンゴ酸・クエン酸・グルコン酸等)の市場の伸びは期待できますか?

食品用酸味料から工業用途迄、広範囲にわたり世界的需要は今後も毎年拡大し続けていきます。国内では人口の伸びは期待できませんが、共働き世帯・高齢者・一人家族が増えることにより、中食・惣菜・高齢者食への新しい市場が急速に伸びています。「快適で便利、美味しい」生活実現のために、果実酸の用途開発を日々進めています。

### Q.4 電子材料事業の設備投資の進捗状況に関してお聞かせ頂けますか?

超高純度コロイダルシリカの製造能力強化のため、増設工事を京都第一工場及び第二工場でも平行して進めています。許認可・建設工事は計画通りに進捗しており、来年度上期に完成し、洗浄や試作を行ない増産体制が整います。その後、試作品の顧客評価・認証を経て本格稼働となります。

引き続き需要動向を見ながら、必要に応じて生産・供給体制を強化し、世界一の超高純度コロイダルシリカメーカーとして他社を追従させない体制を堅持・強化していきます。

### Q.5 コーポレート・ガバナンス・コードへの対応は進んでいますか?

迅速な経営方針の決定及び業務執行における監視・監督の強化と業務分担を明確化し、経営環境の変化に迅速に対応できる機動的・戦略的な経営体制を構築しています。

たとえば、独立役員は「独立取締役選任基準」に沿って選任を行うことで、一般株主と利益相反が生じる恐れがないように留意しており、現在、取締役8名のうち社外取締役は3名(独立役員2名)、監査役4名のうち社外監査役は2名(独立役員1名)となっています。また、取締役会の実効性に関して、全ての取締役・監査役に対し、無記名式段階評価・インタビューを実施し、取締役会において分析・評価しています。また、取締役会では経営に係る重大な意思決定に関して、活発な議論がなされています。

### Q.6 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

今期の業績も当初連結業績予想に対し、これまで順調に進捗しています。計画を完遂し、5年間連続の増収増益(売上高・営業利益)達成を目指し、全社一丸となって尽力していきます。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識し、配当性向、配当利回り等を考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施する事で、株主の皆様に対する利益還元の充実を図っていきます。

株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 事業概況

**ライフサイエンス事業**全体の業績は、外部顧客に対する売上高が117億9千4百万円(前年同期比11.5%増、12億1千4百万円増)、営業利益は16億7千4百万円(同12.4%減、2億3千7百万円減)となりました。

国内においては、リンゴ酸、クエン酸をはじめとした果実酸類の拡販、工業向け製品の販売増、および主要原料価格上昇に対応した販売価格改定に努めました。また、海外子会社も堅調に推移した結果、売上高は前年同期を上回りました。

一方、営業利益は夏期・冬期に行われていた大阪工場の定期修繕期間の第1四半期への変更、原料価格の上昇や輸入仕入価格の上昇が利益を押し下げる要因となりました。これらの結果、ライフサイエンス事業全体では増収減益となりました。

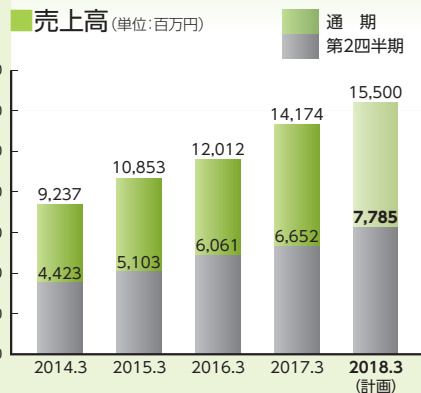
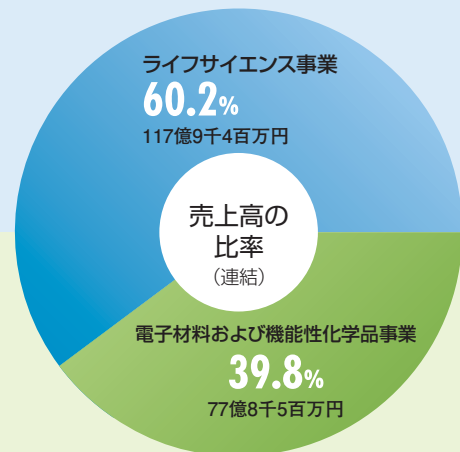
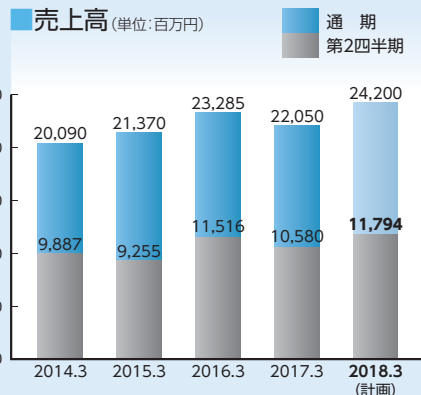


LIFE SCIENCE

ELECTRONIC MATERIALS & FUNCTIONAL CHEMICALS

**電子材料および機能性化学品事業**全体の業績は、外部顧客に対する売上高が77億8千5百万円(前年同期17.0%増、11億3千3百万円増)、営業利益は43億2千7百万円(同35.8%増、11億4千百万円増)となりました。半導体市場が継続して堅調

であり、半導体製造プロセスの微細化の進展により当社製品「超高純度コロイダルシリカ」への需要も増加しています。さらにナノパウダー等の半導体研磨分野以外に使用される製品の販売も堅調に推移したため、売上高は前年同期を上回りました。営業利益は、下期に予定している設備投資および定期修繕に伴う工場稼働停止に備えた前倒し生産による製品原価の低減、さらにコスト削減や販売数量の増加により、前年同期を上回りました。



## 特集 扶桑化学工業 鹿島事業所



2017年11月1日、茨城県神栖市に扶桑化学工業の東日本初の生産拠点となる、鹿島事業所を開所しました。新大阪事業所、京都事業所に続く3番目の国内事業所となります。

当社は、2014年7月に三井化学株式会社と締結した有機酸事業承継の事業譲渡契約に基づき、同年10月1日に営業権を譲り受けて同社が鹿島工場で製造した無水マレイン酸・フマル酸の販売を行ってまいりました。生産設備につ

いては石油化学関連設備の撤去工事終了後としておりましたが、撤去工事が完了したことから有機酸設備も譲り受けて11月1日より扶桑化学工業として製造を始めました。

今後は、自社のネットワークを活用し、日本No.1の生産量を誇るフマル酸の販売物量拡大を図っていきます。また、2019年7月の完成を目指し、同事業所内にリンゴ酸製造設備の新設工事に着手します。これは、果実酸コンビナート構想の第一歩です。リンゴ酸の原料である無水マレイン酸からの一貫生産により競争力を強化し、伸び行くアジア市場を中心に世界におけるリンゴ酸のシェア拡大を図っていきます。





# 連結財務諸表(要旨)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2017年9月30日)	前連結会計 年度末 (2017年3月31日)	科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2017年9月30日)	前連結会計 年度末 (2017年3月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>42,704</b>	<b>41,349</b>	<b>流動負債</b>	<b>11,763</b>	<b>9,297</b>
現金及び預金	22,940	24,471	支払手形及び買掛金	3,181	2,852
受取手形及び売掛金	11,142	9,726	未払金	5,826	3,540
商品及び製品	5,299	4,800	未払法人税等	1,601	1,751
仕掛品	171	175	その他	1,154	1,152
原材料及び貯蔵品	1,069	933	<b>固定負債</b>	<b>2,188</b>	<b>2,127</b>
繰延税金資産	390	394	退職給付に係る負債	1,619	1,592
その他	1,690	846	繰延税金負債	425	395
<b>固定資産</b>	<b>19,591</b>	<b>15,235</b>	その他	144	139
<b>有形固定資産</b>	<b>17,510</b>	<b>13,272</b>	<b>負債合計</b>	<b>13,952</b>	<b>11,425</b>
建物及び構築物(純額)	5,639	5,691	<b>純資産の部</b>		
機械装置及び運搬具(純額)	2,322	2,162	<b>株主資本</b>	<b>46,439</b>	<b>43,559</b>
土地	3,067	3,066	資本金	4,334	4,334
建設仮勘定	6,084	1,934	資本剰余金	4,820	4,820
その他(純額)	396	417	利益剰余金	37,288	34,408
<b>無形固定資産</b>	<b>330</b>	<b>284</b>	自己株式	△4	△4
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,750</b>	<b>1,678</b>	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>1,898</b>	<b>1,594</b>
投資有価証券	970	861	<b>非支配株主持分</b>	<b>6</b>	<b>6</b>
長期前払費用	35	29	<b>純資産合計</b>	<b>48,343</b>	<b>45,160</b>
繰延税金資産	525	557	<b>負債純資産合計</b>	<b>62,296</b>	<b>56,585</b>
その他	218	229			
<b>資産合計</b>	<b>62,296</b>	<b>56,585</b>			

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2017年4月 1日から 2017年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2016年4月 1日から 2016年9月30日まで)
売上高	19,579	17,232
売上原価	10,933	9,602
売上総利益	8,646	7,629
販売費及び一般管理費	3,222	3,076
営業利益	5,424	4,553
営業外収益	56	38
営業外費用	34	132
経常利益	5,445	4,459
特別利益	0	0
特別損失	6	2
税金等調整前四半期純利益	5,439	4,456
法人税等	1,672	1,400
四半期純利益	3,767	3,056
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,767	3,056

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2017年4月 1日から 2017年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2016年4月 1日から 2016年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,518	4,042
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,934	6,025
財務活動によるキャッシュ・フロー	△891	△890
現金及び現金同等物に係る換算差額	57	△460
現金及び現金同等物の増減額	△1,249	8,716
現金及び現金同等物の期首残高	23,985	11,214
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,735	19,930

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## Point 1 連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ57億1千百万円増加し、622億9千6百万円となりました。これは主に、建設仮勘定の増加によるものです。

負債については、前連結会計年度末に比べ25億2千7百万円増加し、139億5千2百万円となりました。これは主に、未払金の増加によるものです。

純資産については、前連結会計年度末に比べ31億8千3百万円増加し、483億4千3百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

## Point 2 連結損益計算書

当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、果実酸類や工業向け製品の販売増および販売価格の改定、超高純度コロイダルシリカ、ナノパウダーの好調な出荷、コスト削減や定期修繕に備えた前倒し生産による製造原価の低下により、売上高および利益ともに、半期としては過去最高となりました。

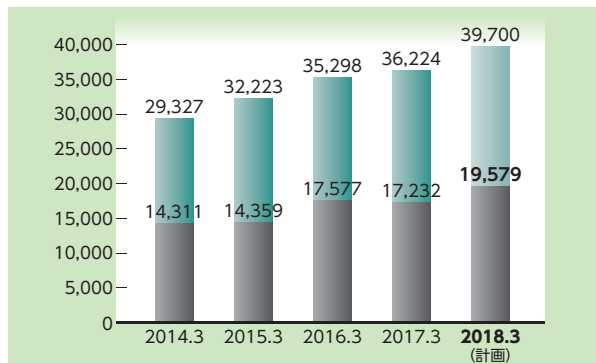
## Point 3 連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ12億4千9百万円減少し、227億3千5百万円となりました。

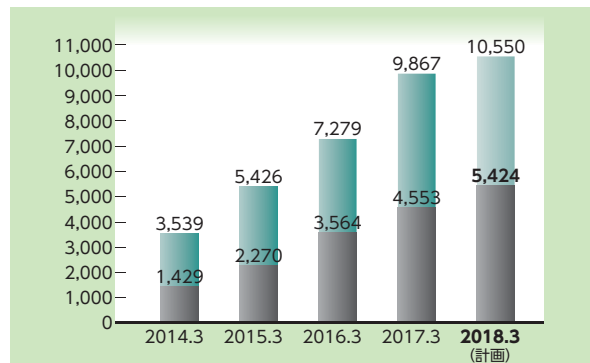


# 業績ハイライト(連結)

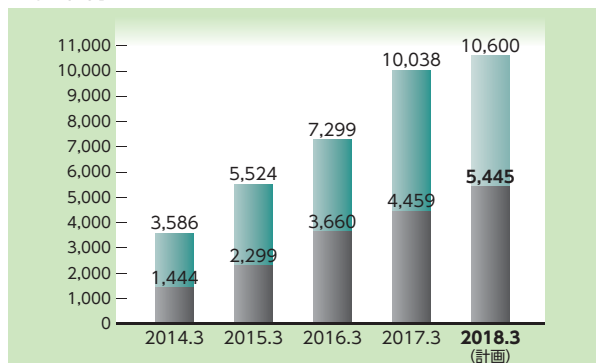
■売上高 (単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期



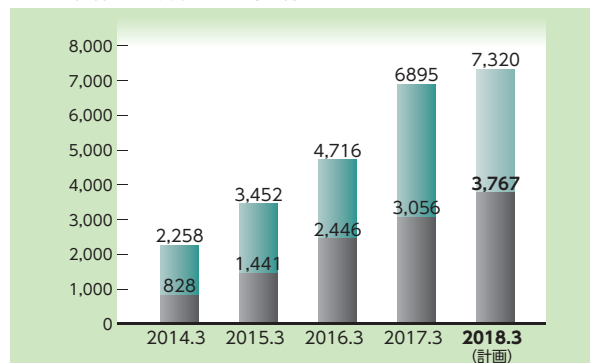
■営業利益 (単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期



■経常利益 (単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期



■親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円) ■ 通期 ■ 第2四半期



## 第2四半期と通期における業績の推移

	2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期 (計画)
売上高(百万円)	14,311	29,327	14,359	32,223	17,577	35,298	17,232	36,224	19,579	39,700
営業利益(百万円)	1,429	3,539	2,270	5,426	3,564	7,279	4,553	9,867	5,424	10,550
経常利益(百万円)	1,444	3,586	2,299	5,524	3,660	7,299	4,459	10,038	5,445	10,600
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	828	2,258	1,441	3,452	2,446	4,716	3,056	6,895	3,767	7,320
償却前営業利益(百万円)	2,197	5,384	3,221	7,573	4,464	9,077	5,202	11,209	6,063	12,260
1株当たり当期純利益(円)*	26.29	71.68	45.75	109.57	77.64	143.76	86.08	194.22	106.11	206.17

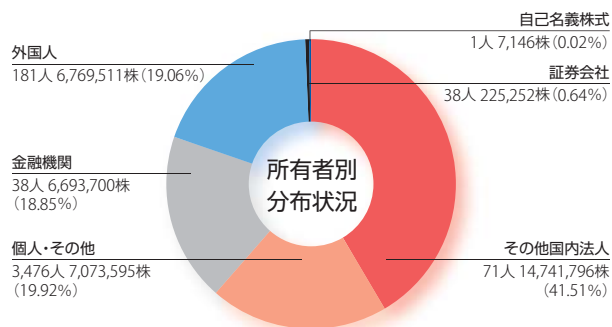


# 株式情報

## ■株式の状況 (2017年9月30日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000株
- 発行済株式の総数：35,511,000株  
(自己株式が7,146株含まれています。)
- 株主数：3,805名

## ■株主の分布 (2017年9月30日現在)

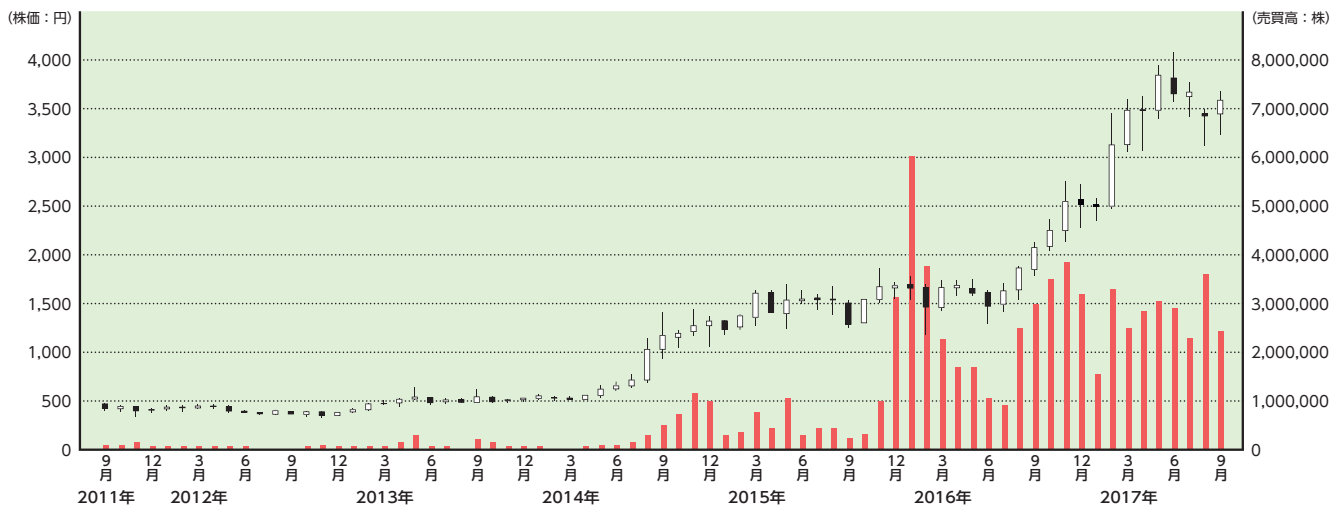


## 大株主 (2017年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.76%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.37%
赤澤 庄三	3,085,965	8.69%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,907,100	5.37%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,500,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.87%
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	1,318,500	3.71%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,243,600	3.50%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.34%
株式会社りそな銀行	792,500	2.23%

(注) 持ち株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

## ■株価の推移\*



\*2014年10月1日付の株式分割(1:5)に伴い調整を行っています。



# 会社概要

## 会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号  
(日生伏見町ビル新館5階)  
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所
  - 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
  - 京都事業所
    - 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
    - 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
  - 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
  - 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号  
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
  - 福岡営業所 福岡県柳川市三橋町下百町42番地1  
(荻島第5ビル3階)
  - 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
  - 十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社 (国内) 株式会社扶桑コーポレーション
- 主要子会社 (海外)
  - 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
  - PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
  - FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)

## 役員

(2017年9月30日現在)

### ■名誉会長および取締役

ファウンダー 名誉会長	赤澤庄三
代表取締役会長	藤岡実佐子
代表取締役社長	赤澤良太
取締役 (電子材料事業部長)	政氏晴生
取締役 (ライフサイエンス事業部長)	谷村隆史
取締役 (管理本部長)	武川隆彦
取締役	多田智美
取締役	江黒早耶香
取締役	中野佳信

### ■監査役

常勤監査役	中永吉信
常勤監査役	赤澤敬敏
監査役	榎本修三
監査役	木下善樹

### ■執行役員

執行役員	中司哲浩
<small>(ライフサイエンス事業部 営業開発部 福岡営業所長 兼 株式会社扶桑コーポレーション 代表取締役社長)</small>	
執行役員	梶本源樹
<small>(ライフサイエンス事業部 営業開発部長)</small>	



# 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当金 毎年3月31日  
 中間配当金 毎年9月30日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) ☎0120-782-031  
 (インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

## 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

## 【特別口座について】

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<http://www.fusokk.co.jp/>)
- 上場金融商品取引所 東京証券取引所市場第一部

## 【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしています。

当期の中間配当につきましては、1株当たり22円とさせていただきます。

期末配当は1株当たり23円とさせていただく予定で、これにより通期の配当は1株当たり45円を予定しています。

**FUSO**  扶桑化学工業株式会社

<http://www.fusokk.co.jp/>

VOC  
FREE T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの  
インキを使用して印刷しました。